

## 第1回山田社宅保存活用検討委員会議事録

日 時 平成22年10月28日(木)  
10時00分～12時00分  
場 所 山田社宅(星越町19番5号)  
出席者 7名(藤縄、近藤、河野義、河野、仙波、庄司、越智)  
欠席者 2名(久石、赤尾)  
事務局 別子銅山文化遺産課 横井(課長)、加藤

加藤 会開催の前に、この会が公開で行われ、議事録も公開されることについて皆様のご承諾をお願いします。また、本日、愛媛新聞から傍聴に来られていることについて、お知らせします。

課長 まず、概要説明ですが、山田社宅については、今までは住友グループの関係4社、鉱山、林業、化学、共電と「別子銅山保存活用連絡調整会」で協議を行ってきました。

共電については、この棟と北側の棟の2棟を所有されていましたが、本年4月に市に寄贈していただきました。この社長宅については今年の8月まで使用されていました。

実際に使われていたので、山田社宅全体の中でもっとも状態がいいと思われま。サッシュも一部取りかえられており、屋根も葺き替えられています。昭和29年に建設されたものです。北にありますのが、同じく昨年8月まで共電の監査役が住まわれていた棟ですが、社長宅と比べるとやや小ぶりです。この2棟について、庭も含めて、現在、市で管理している状況です。土地については、林業と鉱山とが所有されていて、本年については、4月1日にいただいたという関係で、鉱山の方で、全額負担していただいて、市に無償貸与していただいております。来年からについては、適正な価格で双方に支払いたいということで進める予定にしております。こちらの旧共電社長宅については、お送りしております資料にありますが、広さだけでは鉱山の所長宅の次に広いと思われま。部屋数だけで考えると所長宅より多いのではと考えられます。委員の皆様が入られた玄関は、お客様用の玄関です。ですから、表から鍵が開きません。真中にあるのが住まわれている方の玄関で、奥に勝手口ということ。部屋数は図面を見ていただくとおり、十数部屋、トイレが3カ所あります。もう1棟ありますのが北側の監査役のお宅です。次に説明しておきたいのが山田社宅全体の話です。かつて山田社宅は東の端から西の端までかなりの距離がありますが、東側にはかつて化学の社宅がございました。今はすべて壊されており、空き地になって数年たっております。星越の駅舎から続く棟につきましては、概ね鉱山が管理している棟で、20棟ほどは今も現役で使われています。西の奥には池がありますが、この青く囲んでいる部分には3社の中でもっとも幹部の方の社宅、鉱山の所長宅、化学の工場長宅が2棟、共電の社長宅、それから西洋社宅が2棟などが現状残っているということです。山田社宅は全体で13haあるそうですが、それらの使用については、土地所有が林業、鉱山が大半で、東の奥に一部化学の土地があるわけですが、この4月から鉱山と林業と市とで情報交換会を3回行い、話を重ねています。青で囲んでいる部分については幹部社宅が残ってしまして、市としても、結論がでていない状態です。

この検討委員会の中で検討していただきたいのは、まず、いただいたこの市所有の2棟について、今後どのように保存活用していくことができるのかの検討をいただきたい。

もうひとつが、2棟を除く住友企業がお持ちになっている社宅について、会社としては社宅としてはその使命を終わったという見解ですが、現在も庭の手入れなどもされており、鉦山所長宅から西側の3.3haの社宅につきましても、どのような保存活用が考えられるのかを検討委員会の中で検討していただき提案したいと思っています。

最後には13haという山田社宅地域全体の検討が必要かと思っております。

星越選鉦場の建物も古く、80年以上が経過しており、トタン屋根が惣開小学校に飛んでしまわないかと企業側からは懸念されております。建屋については壊すことは発表されており、工事に入っております。インクライン、奥の天井ビン、ミルビン、大ビンの選鉦施設の一部については安全性を考慮したうえで残したいと表明されております。選鉦場の様子は変わるものの、ここに選鉦場があった様子については残され、新しい顔が見えてくるものと思います。星越駅舎、星越トンネル、別子銅山の歴史を考えるうえで下部鉄道は非常に重要な役目を果たしました。山田社宅そのものも星越の駅舎があって、星越の選鉦場がある。実際の仕事は端出場に採鉦本部があって行うということで、いわゆる田園調布型の郊外型住宅、田園調布は大正の終わり頃に渋沢親子が開発したのですが、その後の時代に、それを意識したうえで、別子銅山の最高責任者であった鷲尾さんが開発したのが山田社宅だと考えております。そういった非常に貴重な社宅並びに星越駅舎、下部鉄道関係も含めた星越の全体の町の今後の整備につきましてもご提言いただければと思います。大きく分けて、この3つの提言をこの検討委員会の中で協議いただければと考えております。議題の1と2をいっしょにお話しさせていただきましたが、何かご質問ございますでしょうか。

河野義 検討委員会ということで、表題には山田社宅の保存活用検討委員会となっておりますが、僕が常々思っているのは保存活用する前にすることがあるのでないか。課長が認識している山田社宅について説明されましたが、それほど市民は詳しく知らないのではないかな。知らないものは好き嫌いもなしに、保存しなければとか、活用しなければとか分からない。調べてみると、どの建築関係の大学の先生も、まず、新居浜なら新居浜の人が無関心なのではない、知らないから残さなければとか、活用の仕方を考えるとかのところにいかない。これは山田社宅に限ってのことではない。一般にそういうもの。ところが、『社宅街』という本によると山田社宅のことをとても良いように書いてあり、この本の中には、現存する社宅街で唯一残っているのはこの山田社宅だと。このことを市民は知らないのではないかな。他所では、もし残っていても、1つか2つ残っているだけで、これだけ形になって残っているのではない、早く見に行った方がいいですよ、とその本には書いてある。検討委員会はそこから始めなければならぬのではないかな。どうやって保存するか、専門家でない我々が言うことよりも、まず市民に、いろんな人に知ってもらおう。私は教員OBですから、星越選鉦場がなくなるということを知りまして、一昨日、ある学校へ行って、子供たちが「星越選鉦場はどんな形になるの?」、これは素朴な疑問でギクッとさせられました。僕はハタッと困って、先ほど課長さんが言われたように、「惣開小学校にトタン屋根が飛んできて困るので壊すんだ、と鉦山のセンター長さんにお聞きしたので、先生としてもこれはしかたがないなと思いました。」と話しました。僕は角野新田俱樂部がなくなった頃、新居浜にいなかった。これは白亜の殿堂み

たいでした。私の知っている限りでは、鹿森社宅の届け出は、倉庫なんです。だから、ここみたいな天井がない。勉強すればするほどおもしろい。住友の土木課が手掛けた最後の社宅だとのこと。住友倶楽部とか泉寿亭は専門の設計家が設計しているが、延々と別子山から降りてきて、住友の土木課の課員が造ったので、ノウハウが詰まっている建物です。この大事さは、みんなに知ってもらおう努力をしなければならぬと、建築家が書いております。もう一つお褒めの言葉があったのは、その先駆けをしたのは新居浜市だと、いうことを書いてくれていて、うれしくなりそうなんです、そんなに言われると、新居浜市は褒められすぎだと思いましたが、ただ一つだけ言えるのは、6年前から社宅を残してほしいと言っていた人がいる。これはここにおられる近藤委員さんです。惣開地区の校区集会で、毎年、星越社宅をなんとかしてほしい、方や、西中では、なんとか残すために、総合的学習の時間で、今年、生徒数の具体的な数字を言いますと、一番山田社宅をテーマに選んでいる子供が多いのです。大人として、恥ずかしいな、そんなことに無関心でおれるのか、というのが僕の気持です。生徒の方が意欲的で、敏感に、新聞に載っていた選鉱場がなくなる、その近くに山田社宅がある、ということで発表のテーマに選んでいるのです。僕は、まず保存して活用という前に、皆さんに知ってもらわないといけない。なんとか、そのことをみんなで頑張っていきたいなと思います。東平は、東洋のマチュピチュでとても人気が出たんです。あれをみるとネーミングが良かったと思います。星越の選鉱場は、東平のマチュピチュと同じようになると思います。私は勤めていたので知っているが、あそこには、花崗岩の石積がある。そして、タンクが残る、インクラインを研究している子供もいる。僕は学校関係者として、郷土のものを残さないといけない、別子というものを意識させないといけない、というのでやってきた。ここを貰ったというのは、インターネットで調べた人以外は知らないと思います。広報紙とか、テレビとか、新聞とかで、「これ見て。」と意識させないといけない。

課長 順番が逆になって申し訳ありませんが、ここで、委員の皆様の自己紹介をお願いします。

越智 私は教育委員会事務局社会教育課の越智と申します。社会教育課に行く前は惣開公民館にありましたので惣開マップを作らせてもらいました。わたしもぜひ、山田社宅を残してほしいという一人です。社会教育主事講習の時、バスで横を通る機会があって、他から来ている人も、「すごいね。」という声が上がっていたので、新居浜市民だけでなく、外にも知らせていけたらなということで、地道に、マップを作った過程もあります。よろしく申し上げます。

河野義 私は、ほんとうに思い出があるのですが、卒業した生徒が「校長先生、私、ゼミで、30分ずつ時間をくれて、ふるさとについて語るというので、なんとか、太鼓台のことは15分くらい話せましたが、その後、もたもたしていると、ゼミの先生に、お前は日本3大銅山の新居浜から来たんだろう、と言われたのに、十分なことが言えなかった、非常に恥ずかしかった。」ということがあり、私自身恥ずかしかった。卒業した後、新居浜を語る時に別子銅山を語れる、僕の具体的な目標では、15分は語れる子供にしたいと思い、自分のいた学校では、住友のこと、別子銅山のことを1年生は全員研究するという時間をもった。たまたま、この校区の学校に来て、近藤委員と知り合いになって、大人も子供も勉強をしている体制に整えていこうと頑張ってもらっていて、とても喜んでいるところです。

近藤 惣開公民館の運営審議委員をしている近藤公一（こんどうきみかず）です。地元で、今話

題になっているこのことを強い思いを持っている者の一人です。どうかよろしくお願ひします。

藤縄 藤縄と申します。建築士会新居浜支部ということで、新居浜市の文化財委員をしております。別子銅山に関わったのは、マイントピアの開発に携わりまして、河野先生が言われたマチュピチュという脚光を浴びておりますところの歴史資料館の設計をさせていただきましたり、辻坂社宅の再現をしたり、マイン工房も、屋根の抜けたところから再生しております。それから、説明させていただくと、マイントピア、端出場の鉄道の打除駅を木造で作るということをさせていただきましたし、大山積神社の別子1号を囲んでいる上屋もさせてもらいました。広瀬邸の改修を全面的に建築士会で受けまして、有志7、8人で、3年かかって、長期にわたって改修に携わって、文化財に申請する手続き等で、近江の方へ行ったり、京都も行ったりということで、いろいろと携わらせてもらいました。銅山をわが故郷ということで考えておりまして、選鉱場が壊されると聞いた時にはかなり悲しい思いをしましたが、私がこちらへ帰ってきた頃にちょうど角野新田のお風呂、娯楽施設が解体されるということで、先輩の建築士が保存運動しようじゃないかと動き始めたのですが、あっという間に壊されて、無力感を感じました。この山田社宅でも、一般社員が住んでいた社宅が次々壊されていて、幹部が住んでいた社宅は誰に見せてもいいものだが、一般の社宅も残さなければならぬと思う。河野委員が言われたように、貴重な社宅として、昭和の初期に造られた総合的な計画の町で、後世に残していくべきだと思っていますので、市民の意識も高めなければならないと思いますし、それに平行して、保存を早急にして、前にも住友倶楽部が壊されるという話がありまして、非常に心配していたが、屋根を直して、昔の屋根がなくなって、雰囲気もなくなってきている。文化財の保存に関しては非常に緊急性を要するし、市の協力もいると思います。市がお金を出すとか税金を免除するとか保存をするとか、ほんとうにやっていただきたい。日本に誇る文化遺産だと思いますのでよろしくお願ひします。

河野 NPO法人にはま市民企画ノボックの河野みどりです。NPO法人にはま市民企画ノボックと申しますが、新居浜市が文化センターの本館1階に設置しております新居浜市まちづくり協働オフィスを受託運営しております。市民活動の活動支援で協力させていただいております。私はこの協働オフィスのスタッフということで、今回、ノボックの中から河野がなぜ、ということになりますと、古建築が個人的にとっても好きだということが一つありまして、訳も分からず、あちこち歩いているということで、好きなら行って来いということで、こちらに顔を出させていただいたということがあります。さきほど、河野委員から子供たちということ、それから、市民の皆さんに関心を持ってもらうということが大事だということ、とても同感でして、昨日NHKの「歴史秘話ヒストリア」を見ていましたら、トルコの船が沈没した時に和歌山の大島の住民たちが助けたということがあり、大島の人たちにトルコの船の名前を聞いたら、みんなが答えられるというところで、すごいなと思いました。市民がみんな私たちの町のことを語れるというのはすごいことだと思ったんです。はたして、別子のことをみんな語れるかと、河野委員がおっしゃられたことを考えながら見ておりました。私自身のこの社宅の、一戸一戸の社宅ではなくて、社宅群であることがすごい値打ちがあると思っています。軍艦島の写真集を先日、入手することができ、それを見ておりましたら、あそこも社宅が廃墟として残っていて、そこのおもしろさと比較しながら考えるとすご

く対象的な部分なので面白いなと思って見ていました。1つ1つ勉強させていただいて、これから進めさせていただければと思います。よろしくお願いします。

仙波 新居浜商工会議所の仙波と申します。私共会議所は、数年前からご当地検定ということで、とっておきの新居浜検定というのをやっております。主な目的が2つありまして、1つが別子銅山を含めまして市民に新居浜の良さを再発見してもらうことと、もう1つが観光客におもてなしの心で接するボランティアガイドを養成するということがあります。去年からボランティアガイド養成講座を開催してまして、ボランティアガイドを何人か養成することができたが、広域的なボランティアガイドを養成することが必要だと考えています。情報提供としては、皆さんご存じだと思いますが、住友グループの広報委員会のホームページで今、住友400年の歴史ということで漫画になった紹介ページができてまして、6話までできていて、5話で別子銅山が発見されまして、6話でも別子銅山が火事になった話になっています。また、見てもらったらと思います。よろしくお願いします。

庄司 都市計画課の庄司です。よろしくお願いします。河野委員はじめえんとつ山倶楽部の皆さんにはえんとつ山のことでお助けいただきありがとうございます。まちづくりの観点から私にできることがあればお話しさせてもらって、皆さんの意見をまちづくりに反映させていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

加藤 別子銅山文化遺産課の加藤と申します。この4月から別子銅山文化遺産課に替わってきまして、まだ、駆け出しなんですけど、私自身のことを申しますと、曾祖父の時代に旧別子に家族がおりまして、当時、坑夫の仕事に携わってきた経緯がありまして、この仕事させていただいて、やる気をもってやっております。今後共よろしくお願いしますと思います。

課長 別子銅山文化遺産課課長をさせていただいております横井です。別子銅山の産業遺産ということに関しまして、素人に近い状態でした。平成15年に市長がプロジェクトチームを作るということで、産業遺産のプロジェクトチームがありまして、山田社宅の保存活用について考えました。端出場水力発電所とか山根製錬所の煙突とかは、非常に大切なものですが、維持するのが最も大変なのは山田社宅だと思ひまして、山田社宅を残す方法はないのかということも勉強もしました。イタリアにクレスピ・ダッダという世界遺産がございます。ここについてはクレスピ一家が事業を興しまして、理想的なまちづくりを行います、世界恐慌のなか潰れてしまいます。現在、その時のコミュニティが残ってまして、子孫たちがお住まいです。100年以上経った今も残っている社宅とコミュニティが世界遺産となっております。山田社宅はそれとはすこし違うんですが、別子銅山の発展の中、先ほど申しましたとおり、非常に貴重な役割を残した一帯です。河野委員から先ほどご紹介いただいた『社宅街』の冊子にも唯一残っている社宅群と書かれている訳ですが、先日、足尾に行きまして、元の足尾事業所の所長宅ほか6棟が舗装されていない道の横に残ってまして、副所長宅は屋根が落ちて非常に危険な状態です。建築としては、価値が高いのが所長宅なんですけど、それ以外の各種社宅も残っておりまして、実は山田社宅より20年近く古いものです。明治時代の社宅ということ高く評価されており、栃木県の県指定の文化財になっております。

かなり手を入れなければならないということで、今、足尾の町は日光市になっていますが、社宅は、企業の所有であり、企業並びに栃木県、日光市の3者で負担する予定で現在計画中のことでした。先ほど河野委員の言われたように、山田社宅は市民の皆さんに一番知られ

ていない別子銅山の産業遺産なのではないかと思います。これについても、この検討委員会の中でどうすればいいか考えていく必要があると、皆さんのお話を聞きながら思いました。

今日はこの旧社長宅と、お隣の旧監査役宅を実際に見てもらうのと、中には入れませんが山田社宅全体について外から見ていただきたいと思っています。

次に、委員長と副委員長とを決めていただいて、今後、どういう頻度で会を重ねていくのがいいのか、ご検討いただきたいと思います。どなたか、委員長をお引き受けいただきたいのですが。

藤縄 河野義隆委員がいいと思います。

河野義 僕は星越選鉱場にはとても思い入れがあるんです。皆さんのような研究の専門の方もおられるので、こんなに大事なものだということを、建築家から見て、ほんとうに大事なんですよというアピールして、市長はじめ市の方、市民の方、いろんな人たちに知ってもらいたい。興味ないのではなくて、知らないから放っておかれていると思うので、特に選鉱場は、僕なら、教育長に談判してでも、星越選鉱場は小中学生に1度は見てもらうように言いに行きます。理屈はわからなくていい、バスでも連れてきて、30分でも1時間でも見せて、あれは見たな、というふうにしてやりたい。もう無くなるのはわかっているんだから。僕は山根倶楽部がなくなってつらくてたまらない、新居浜にいない間に、廃止になっていた。旧別子、東平、鹿森、山根と、鉱山の土木課が建てたんです。鉱山の生え抜きの技術を結集して建てた。ここを見ても天井は高い。90歳くらいになった知り合いは、届け出は倉庫なんで、私らが住んでいたところは天井はないんですよ、と言っている。鹿森では柱に彫りこんだ跡があり、鹿森に住んでいた人に聞くと、これは旧別子から持ってきた廃材で、旧別子を壊したので再利用している。住友は再利用の名人です。何でもないとこに彫りこみがあるのはそういうことなんだ、と聞きました。

藤縄 広瀬邸自体も久保田からの移設で、穴がいっぱい開いた材を使っていました。不自然な建て方になっていることもありました。

河野義 そういうところも大事なので知らせてあげたらと思います。

藤縄 委員長の選任もありますが、子供さんを東平の自然の家へ行かせてないんですね。

河野義 西中だけは行っている。

藤縄 今、他所へ行くんですね。

河野義 僕がいた頃は、半分は他所へ行ってもいい、半分は新居浜市で建てた東平自然の家という立派なものがあり、別子のことを学べるので行くことで、半分の許可にしていた。「先生が他所へ行くと楽だ、生徒は瀬戸内海の橋を見せると喜ぶからと言って、そんなことで教育するんじゃない。」と 私は言いました。

藤縄 私が子供の頃には、えんとつ山まで遠足に行くし、広瀬にも遠足に行って、広瀬の茶畑も見た記憶が残っている。えんとつ山も、下の穴の開いているところから潜ってみて、星が見えるということだったが、見えなかった記憶がある。そのころから愛着が芽生えているんですね。合田正良先生がしていた科学自然教室があった。子供たちを新居浜市の自然があるところに連れて行って、中央構造線とか、岩とか、いろいろ教えていただいて、地域になじんだ記憶があるんです。そういうのが最近はない。

河野義 西条から新居浜へ来ている先生で、星越選鉱場が何の建物か、知らずに毎日通っている先

生がいて、私は啞然としました。

藤縄 新居浜市の職員さんの新人は絶対にあそこへ行くようにしてもらいたい。

課長 実は職員研修をやっております。数年前は、坪井前課長たちが講師を務め、全職員対象に、職員は最低でも2回講習を受けなさいということで、市長以下全職員が受講しました。

今は、1、2年目の職員を対象にして旧別子登山を行っています。また、部長以上の幹部職員も2年に一度、旧別子へ行っています。

藤縄 ぜひ会議所がやっている新居浜検定とか受けて、課長クラスはそれくらい持っておかないといけない。

仙波 今年から中級も始めました。

河野義 西中は今年、地方局の方、鉱山の方にも、鉱山のことを勉強した校内の発表会に案内を出している。子供ですので稚拙な発表しかできませんが。今年おもしろいと思うのは、住友の井桁のマークについて注目してやっている子がいる。子供の発想というのは大事にしなければと思いました。

課長 ご推薦いただいているので、河野委員、委員長をお願いします。

河野義 はい。

課長 近藤委員、副委員長をお願いできますか。

近藤 はい。

課長 ぜひ、お願いします。

近藤 私が心配しているのはこういう建物については、のんびりはできない。取り壊されている訳です。行政が主になって、意欲を皆でアピールするのは大事なのですが、並行して、やっていかないといけないということと、ぜひお願いしたいのは、調整機関ができたというのは素晴らしいと思うのですが、こういう形をどんどん進めていって、この一角は、とかですね、そういう形で残していただくような、行政の方も力を入れていただきたらと思います。

課長 行政の中もまだ白紙に近い状態のものでして、それで市民からのご提言というのがこの会から出していただきたいわけです。また、結論を急ぐ必要があると私も考えておまして、それといただいた2棟をどう方法で保存活用していかなければということとと思っています。

河野義 一つだけやっていては間に合わないようになってきている。僕が強調したいのは、2棟の保存活用だけやってはいけないし、並列的に進めないと、どんどん壊されていく。ここだけでなく、全国的にです。

課長 なかなか、維持管理にお金もかかりますし、現状、新居浜市は良い方なんですけど、財政的に厳しい県市が多くなってきています。

河野義 保存活用していく時にお金がかかるのは分かるんだけど、知恵を出して、市民が活動して、受益者負担のような形になったら、鉱山のような会社、市とか動きやすいので、市民にやってくれと頼むのではなく、近藤委員がよく言われていたが、草を引いたりするのは、僕らのえんとつ山倶楽部でも手伝ってくれている人で1カ月に1回くらい刈りに来るよとか、できるものをうまくして、いつも話にするのが、鈴木馬左也の大分の家へ行って見た時に、建物を使っているんですよ。旧広瀬邸のような、ひずんで見えるガラスが使われているんです。平気で普通に使っていて、見せるためだけでなく使っている。お年寄りの老人福祉の別館として、草履をわいわい言いながら作ってありました。そこへ行って見せてもらいまし

た。うまく利用すれば、改造して喫茶店にしたり、映画の建物とか、お金は丸抱えでなくてできるんじゃないかと思う。

課長 そのあたりは2回目の会で話し合いたいと思います。先ほど言われたPRのこと、情報発信の方の案を考えたいと思います。

河野義 市が言ったことをしましよと請負するのではなくて、我々の方から提案して、傷んだところを直すのも、器用な方もおられるのでしてもらおうとか。

近藤 やはり、民間の力を引き出すのも、進めていくうえでは必要だと思います。

河野義 声をかければ、みんな集まってくれますから。

課長 そういうように、向かっていければと思います。急いでやらなければという状況もあると認識しております。

河野義 藤縄委員さんにお聞きしておきたいのですが、これは珍しいですよ、皆さんに知らせておいてあげたら、というのを一度見て教えていただきたい。

藤縄 近代和風というカテゴリーがございます。県が明治以降の近代和風を調査研究したんです。新居浜は台風災害などあり、断られたものもありましたが、黒島の村上家は調査しまして、近代和風というカテゴリーの中で見直しされてきている。広瀬邸はその最たるものです。建築学的に言えば、そんなに特徴のある建物ではないのですが、そんなにいい建材を使ってもいないのです。ただ、全体の存在価値、間取りの取り方とか、そういうところから歴史が見えてくると思いますね。

河野義 僕も1度、社長さんが現実にお住まいだった時に子供たちを連れて見学させてもらったんですが、鷺尾さんが考えた、風が吹き抜けるように、襖をはずすと行けるようにすると。建築学的に言うとうどうなのか。

藤縄 まあ常識的なことですね。

河野義 窓をたくさん付けるとするのは、私の家を建てた大工さんに言わすと、できるだけそうすると台風の時に雨漏りしないと。

藤縄 特徴がありますね。窓が広いとか。

河野義 広くとって、採光とか、通風を良くしておく。そういうところとか、知って見ると知らずに見ると、子供でもすこし違いますね。

課長 ここの上下水道は使えるようにしています。電気供給については依頼したところで、今までは共電の電気が来ていたのが、四電に変えないといけないということで、3カ月ほどかかるということです。端出場水発についても同じことが言えます。

河野義 共電は、四国電力に電気を売っているんですがね。この水はポンプアップしているんですか。鹿森社宅では良い水源がなかった。270軒くらいの方が住んでいたのだが、水を確保しないとイケない。僅か数十メートルだが標高が高くなったら、水源がいいのがない。ここも考えたらどうしたのかなと思う。角野小学校のところには東社宅というのがあって、水源はどうしたのかなと思っていたら、昔は黒石駅のところの谷から鉄道の線路に沿って、内宮神社のところにタンクが2つあって、そこから水が来ていた。よく考えていたなと思う。今、盛んにマチュピチュの宣伝をケーブルテレビでしている。同じように、いただいた2棟について見どころを映して、市民が知らないことを、市民の目を開かせることができるのではないかと。



課長 近藤委員と一緒に、惣開小学校の児童たちが見学したり、「記憶の継承事業」をここで開催したりしましたが、ほとんど知られていないと思います。

河野義 C A T Vで説明はなくても、市の広報チャンネルで時間が空いた時に、何の気なしに流れていてもいいので、この辺りを撮った映像を使って、難しいことをせずに、問い合わせがあってもいいじゃない。「あれは何を映しているのか。」「実は、寄附してもらった2棟のいろいろな部屋を、こんなところがありますと紹介しているんです。」と、とにかく、みんなの目に触れさせることです。

近藤 惣開小学校の子たちが来た時に、子供の感想で、ものすごく反響があるんですね。あれは愛媛新聞への掲載でしたかね。子供のコメントというのはとても威力があります。子供はほんとうに誇りに思っているんですね。

藤縄 僕は、宮西小・北中校区なんで、全然認識が違いますね。ここまでの愛着心というのはない。

課長 ほんとうに山田社宅というのは知られていないというのが、私の中にはずっとあります。分かりにくいこともありますかね。

河野義 「社宅街」の本では、現存する唯一のとか、最初で最後のとか、うまいことを書いている。

藤縄 ニッコーのCMに取り入れてもらっては。

河野義 僕も知らなかったが、なぜ接待用の部屋が付いているのか。ある人が書いているのを見たら、泉寿亭と住友倶楽部ができた時代とほぼ似ているので、その当時、新居浜も、非常に他所から来た人の接待をしなければならぬ需要が高くなった。今は住友倶楽部が星越館になって、リニューアルしたが、接待する必要がなくなったから。一時はフランス料理食べながら、接待していたのが、そういう需要がなくなったということです。

課長 代わるものとしてリーガホテルが設置されたとのこと。

河野義 もっと言うと、この社宅全体に住みたいという需要もなくなったということです。そういうことは正しく認識しなければ。贅沢なことはいけないというのではなく、仕事の1つとして、来ていただいて、接待することが必要だった。

課長 正月には社長さん宅に皆さん来る訳で、ゲストルームがいます。今はそんな習慣がないようなので、どなたも住んでいない状態な訳です。

藤縄 50年ごとの住友さんのお祝いがあるわけで、この辺りができたのが250年記念ですか。

課長 250年ですね。

河野義 外人社宅にも泊ったんでしょうね。

藤縄 そのために住友倶楽部を整備したんでしょうね。

課長 250年の中心が住友倶楽部で、200年の中心が広瀬邸です。

藤縄 200年の時に広瀬邸に新座敷を作った。

河野義 正しく理解することが必要です。偉くなったら、「贅沢に」みたいな感覚で子供に教えてはいけないと思って、それは贅沢でも何でもなく、それは仕事ということでお接待しなければならない時代だったということですね。

課長 それでは今日はこれまでということで、次回は委員長と連絡を取って、次回を早めにしたしたいと思います。ありがとうございました。

(その後、共電社長宅の外観見学及び監査役宅の内部見学を行った。)